

APAQG濟州会議について

1. はじめに

2018年3月8日～9日に韓国 済州市にて、APAQG（Asia-Pacific Aerospace Quality Group）済州会議が開催された。APAQGはIAQG（International Aerospace Quality Group（国際航空宇宙品質グループ））のアジア・太平洋地域組織であり、JAQG（Japanese Aerospace Quality Group（航空宇宙品質センター））もその一員としてIAQGの活動戦略目標に対応したAPAQG内の活動方針決定やIAQGへの意見吸い上げに対してリーダーシップを発揮している。以下に今回の会議について報告する。

2. 会議の概要

- (1) 今回のAPAQG済州会議には、アジア・太平洋地域の航空宇宙関係27組織から61名が参加した。今回のAPAQG会議では、韓国の2社を新APAQGメンバーとして迎えることができ、APAQG活動を拡大する有意義な会議であった。
- (2) 評議会ではそれぞれの自国内での品質グループの活動状況の報告や、IAQGの最新の活動状況についての情報の共有を図

るとともに、今後のAPAQG活動方針を確認した。

- (3) APAQGレベルで9100規格の認証制度を管理する組織をAPAQG内に設けること（APAQG-OPMT）、およびそこに派遣する日本を主体とするメンバーが承認された。

【解説】 9100規格はISO9001規格に航空宇宙業界特有の要求事項を追加したものであるが、ISO9001認証制度に“認証制度が適正に機能しているかを業界自身が監視する”仕組み（ICOP；Industry Controlled Other Party スキーム）を取り入れている。従来よりこの仕組みを構築しているのはアジア・太平洋地区では日本だけであり（他国は他セクター傘下のスキームのもとで認証活動が進められており、自国での自立した認証活動になっていない）、JAQG内に設置されたJRMC（日本審査登録委員会）がこの業界監視の任を負っていた。しかし昨今韓国内でもこの仕組みが構築されており、APAQGレベルで統括する業界監視組織が必要になるため、APAQG-OPMTが設立されるこ



評議会の様子



評議会後の集合写真（APAQGメンバー）

ととなった。

- (4) 2019年春のAPAQG会議を日本で開催することが決定された。

APAQG済州会議の参加国、参加組織は以下の通りである。

日本：MHI、KHI、SUBARU、IHI、SJAC

韓国：KAI、KAL、Hanwha Techwin、LIG Nex1、KAIA、Hanwha Corporation（新メンバー）、Hanwha System Corporation（新メンバー）、Boeing Korea（ゲスト）、KAB（ゲスト）

中国：AVIC、COMAC、Boeing Tianjin Composites Co.、Aero Engine Corporation of China（AECC）

シンガポール：UTC、Rolls Royce

フィリピン：Moog

インド：HAL、Bharat Forge Ltd.、TATA Advanced Systems Limited、AXISCADES Engineering Technologies

タイ：Triumph Aviation Services Asia

香港：ePITsolutions Limited（ゲスト）

3. 評議会 会議内容

(a) 主要な審議結果

APAQG済州会議は、APAQGセクター・リーダーである北森 直樹氏（川崎重工業株式会社）の開会宣言をもって開始された。



北森氏（川崎重工業株式会社）

評議会での主要な審議結果は以下の通りである。

- ・韓国の Hanwha Corporation社、Hanwha System Corporation社が、協賛メンバーとしてAPAQGへの参加が承認された。
- ・2017年APAQG収支決算が承認された。
- ・APAQG OPMTの設立、及び投票メンバーが承認された。
- ・APAQGチャーターF改定版が承認された。

- ・2018年秋のAPAQG会議は、9月6日～7日にインドバンガロール市で開催することが確認された。
- ・2019年春のAPAQG会議開催国について、日本での開催が承認された。
- ・APAQGセクター・リーダーの北森氏が今回のAPAQG会議をもって退任し、後任には山下昌信氏（株式会社IHI）が就任することが承認された。

(b) 各国のステータス報告

評議会での各国のステータス報告は以下の通りである。

日本：JAQG幹事長（嶋貫 雅一 JAQG幹事長（株式会社SUBARU）（敬称略））より、JIS Q 9100規格の認証取得組織は696組織に、JAQGメンバーは462組織（2017年12月末時点）に達したことが報告された。

また、2013－2018年の活動計画に基づき、ステークホルダーとの連携強化、IAQG活動への貢献と国内への展開とフィードバック、JIS Q 9100：2016年版規格への速やかな移行の3つの方針に従って以下の活動状況が報告された。

- a) ステークホルダーとの連携強化として、防衛装備庁の品質管理仕様書改訂（JIS Q 9100：2016及びSJAC9068改定に対応）に対する支援、JAXA品質プログラム基準（基本要件としてJIS Q 9100を採用）の適用プロジェクト拡大を支援、PRI（Performance Review Institute）Nadcapシンポジウムの日本開催を支援、認定機関／認証機関／認証取得組織を対象に新OASIS（Online Aerospace Supplier Information System）操作方法に関するワークショップを開催、JAQGメンバー／当局それぞれに対して活動報告会を開催する等の活動を行った。



嶋貫氏（株式会社SUBARU）

b) IAQG活動の国内への展開とフィードバックとして、JAQG内の各ワーキンググループ（規格検討WG、SCMH WG、特殊工程検討WG等）の活動内容が報告された。

- ・規格検討WG：5点のSJAC規格発行、2018年3月末までに後1点発行の見込。5点の規格展開支援文書をJAQGホームページに掲載した。
- ・SCMH WG：6点のIAQGガイダンス文書の和訳版を発行、2018年3月末までに残り1点発行することで全てのIAQG SCMHガイダンス文書の和訳が完了する見込み。
- ・特殊工程検討WG：53点のAC（Audit Criteria）チェックリスト（Nadcap（National Aerospace and Defense Contractors Accreditation Program）の監査基準）の和訳版をJAQGホームページに公開。
- ・スペースフォーラム：インドバンガロール市で開催されたアジア・太平洋地域宇宙機関会議；APRSAF-24（Asian Pacific Region Space Agent Forum）でIAQG／APAQG／JAQG活動の紹介を行った。

c) JIS Q9100 2016年版への移行状況としては、全ての審査員、及び証機関の移行が完了し、組織の移行も計画通り行われている。

韓国：Mr. Choi Pilgyu (KAL) より、ステークホルダーとの連携強化として、KAQG (Korea Aerospace Quality Group) 特殊工程WGが新スキームKSPC (Korean Special Process Certification、国内の防衛プログラムのみに適用)を開発していること、KS Q 9100 ICOPスキームのAPAQG-OPMTの承認に向けて順調に準備が進められていること、9100シリーズ規格トレーニングを開講した等の活動報告がなされた。

韓国のAS9100認証取得会社は373組織（半年で19組織増加）であり、また、整備組織向けのAS9110と商社向けのAS9120に関する認証取得会社はそれぞれ20組織、13組織となっていること、KAQGのIAQGへの参加状況、KAQGの各WGの活動状況が報告された。

シンガポール：Mr. Jeffrey Ho (Rolls-Royce) より、シンガポール国内の認証状況について、AS9100認証取得会社は124組織、AS9110とAS9120認証取得会社はそれぞれ17組織、51組織であることが報告された。また、SAQG (Singapore Aerospace Quality Group) 活動概要が報告された。

インド：Mr. S A Razack (HAL) より、インド国内でのInAQG (India Aerospace Quality Group) の活動状況として、メンバー数が100社となったこと、幹事会／総会を2018年1月に開催したこと、InAQGメンバー向けにAS9100Dトレーニングコースを開講したこと、InAQG組織体制の整備ができたこと等の報告が行われた。

インドのAS9100認証取得組織は607組織、整備組織向けのAS9110と商社向けのAS9120に関する認証取得会社はそれぞれ6組織、12

組織であり、9100：2016 (AS9100D) への移行が完了した組織は、204組織であることも報告された。

中国：Mr. TAN Zhen (AECC) より、CAQGの活動状況として、65組織が活動に参加していること、新メンバー (AECC) がIAQG/APAQG活動に参加するようになったこと、2回のセミナー (異物損傷、ヒューマンファクター、形態管理、初回製品検査) を開催したこと、CAQGメンバー向けにNadcapの6つのコモディティ・トレーニングコースを開講した等の報告が行われた。

また、AS9100Dへの移行が完了した組織は289組織、AS9110とAS9120：2016年版への移行が完了した組織は、それぞれ10組織、48組織であることが報告された。

(c) IAQG改善戦略部会傘下の分科会活動報告

評議会では、各IAQGの各分科会の個別報告も行われた。【() 内は報告者 (敬称略)】

このセッションはIAQG会議に参加していないAPAQGメンバーに最新のIAQGの情報を提供し、IAQG活動の成果を共有するという側面を持っている。

規格要求分科会 (白井 達矢 IAQG規格要求チーム APAQGリーダー (川崎重工業株式会社))



白井氏 (川崎重工業株式会社)

IAQG規格要求チームの構成、IAQG規格の発行状況、IAQG規格の改正予定等の報告がされた。

製品及びサプライチェーン改善 (Product & Supply Chain Improvement) 分科会

(服部 洋彦IAQG PSCIチーム APAQGリーダー (三菱重工業株式会社))

IAQG PSCIチームの活動として、IAQG SCM (Supply Chain Management Handbook) 文書が2017年秋のAPAQG会議以降4点発行され、11点が新規作成/改正の作業中であるとの報告が行われた。

これで、IAQG SCM文書は、異なる40項目、100以上の文書が用意されたことになる。

また、IAQG PSCIチームの2018年活動目標が紹介された。



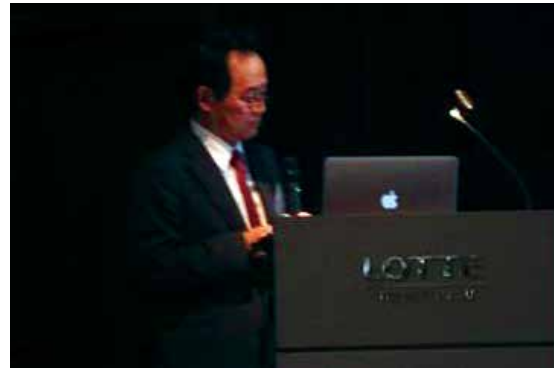
服部氏 (三菱重工業株式会社)

(d) IAQG関係強化戦略部会傘下の分科会活動報告

国際スペースフォーラム (難波 宗行IAQGスペースフォーラム APAQGリーダー (三菱重工業株式会社))

IAQG/APAQGスペースフォーラム 2017年活動目標の達成状況、2018年の活動目標と、2017年11月にインドバンガロール市で開催されたAPRSF-24 (24th Asia-Pacific Regional Space Agency Forum) でのプレゼン状況が報

告された。また、各国の航空宇宙品質グループに対し、IAQG SFの戦略目標に基づく主要ステークホルダーとの連携強化を含む各国の宇宙関連活動プランを立案し、プラン及び達成状況について、次回のAPAQG SF会議で報告するよう要請が行われた。



難波氏 (三菱重工業株式会社)

防衛当局関係強化分科会 (朝倉 崇顕IAQG Defense APAQGリーダー (株式会社IHI))

IAQG ディフェンスチームの構成、各セクターの活動概要、及び各セクターでの防衛当局との関係強化プランが紹介された。また防衛当局 (日本は防衛省殿) によるJIS Q 9100採用において、JIS Q 9100およびICOPスキーム利用のメリットについて情報共有した。



朝倉氏 (株式会社IHI)

IAQG MRO (Maintenance, Repair and Operation) 分科会活動報告

(Mr. David Tan (IAQG MROチーム APAQGリーダー (UTC)))

IAQG MRO ワーキンググループの活動状況が紹介された。



David Tan氏 (UTC)

(e) 国際航空宇宙認証制度管理チームの活動報告

OPMT (Other Party Management Team) 活動報告

(福本 克治 IAQG OPMT APAQGリーダー (川崎重工業株式会社))

IAQG OPMT の2018年活動目標が紹介された。また、同日午前中に開催されたAPAQG



福本氏 (川崎重工業株式会社)

評議会でAPAQG-OPMTの設立及びAPAQG-OPMT投票メンバーが承認されたことが紹介された。

(f) その他のトピックス

・IAQGに対する良いイメージ、悪いイメージ

IAQGで進められている時期中長期戦略立案のために自身を振り返る資の一つとして「IAQG」という言葉に対しどのような肯定的なイメージ、否定的なイメージを持つか」との問いかけを行い、会議への参加者が5分間に浮かぶイメージをそれぞれ2つずつボードに記載してもらった。集計の結果、多くの票を獲得したイメージには以下の様なものがあった。

肯定的なイメージ

- ・規格 (10)
- ・改善 (10)
- ・グローバル活動 (8)

否定的なイメージ

- ・複雑 (11)
- ・コストがかかる (8)
- ・言葉、時間等の違い (5)

(全体で88票)

この結果は、IAQG フィレンツェ会議で報告する。

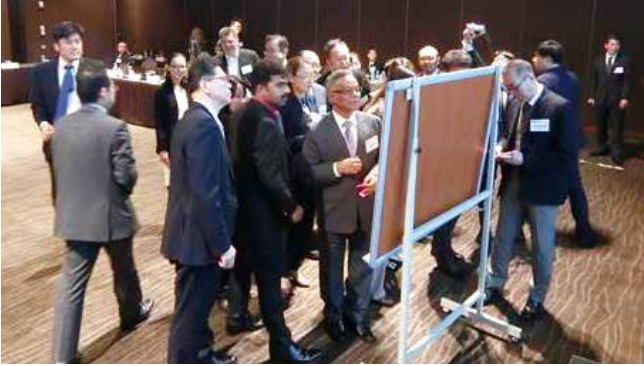
・今後のAPAQG会議予定

2018年9月6日～7日 インド
バンガロール市

2019年 春 日本

・今後のIAQG会議予定

2018年 春 イタリア フィレンツェ
2018年 秋 韓国 釜山



作業風景



ボードに貼られた“良いイメージ”&悪いイメージ

4. おわりに

IAQGは、世界共通の航空宇宙品質マネジメントシステム規格（9100規格）を初めとする関連規格の制定、認証制度の維持に加え、“On Time、On-Quality Delivery（OTOQD）”を効率的に達成することを目標に活動を展開している。

アジア・太平洋地域のIAQG活動は長年日本がリードしてきたが、ここ数年で国内の品質グループが中国／CAQG、シンガポール／SAQG、韓国／KAQG、に引き続きインド／InAQGでも組織化されて始動し、アジア各国

の活動が活性化して来ている。今回の会議でも、韓国から2社が新たにメンバーに加わったこと及び、今まではアジア・太平洋セクターで唯一日本だけが認証制度を持っていたが、韓国の認証制度立上げに向かった準備が順調に進んでいるとの報告もあり、ますます各国の活動が活発化している様子が把握できた。IAQGの中でアジア・太平洋地域の発言力を増して行くためにためには、APAQG活動を更に活発化させ、多くのアジア・太平洋地域のメンバーが継続的にAPAQG会議並びにIAQG会議に参加することが重要である。

〔(一社)日本航空宇宙工業会 航空宇宙品質センター 事務局 部長 前畑 貴芳〕